

## 港区立御田小学校 研究発表会 講演会 講師紹介

青木陽子先生は、6歳の時、予防接種の後遺症で視力を失われました。

現在の筑波大学付属 視覚 特別支援学校で学ぶ中で、津田梅子に憧れ、教育学の研究者になりたいと決意。南山大学の教育学科に進学されました。

同校卒業後は、ニューヨーク州立大学 バッファロー校に留学し、教育学 修士課程を修了、さらには、ペンシルバニア大学 博士課程にも進まれ、教育学の研究を続けられました。

そこで青木先生は、中国の視覚障害者を取り巻く環境の厳しさを知り、視覚障害者の地位向上のための行動を起こされます。

天津外国語大学に留学して中国語を学び、1994年には、中国の視覚障害学生への自立支援のための学校、天津市 視覚障害者 日本語訓練学校を設立されました。併せて、その運営母体として、さいたま市内に、アジア 視覚障害者 教育協会も立ち上げられました。

これまで、青木先生は、中国国内の視覚障害者の能力開発やリーダーの育成、日本への留学支援、視覚障害のある学生を支えるボランティアの育成のほか、

障害者レクリエーションスポーツ交流イベントなどの 国際交流事業も 推進されてきました。

また、日本文化や中国の障害者事情などを紹介する テレビや ラジオ番組の制作も行い、青木先生自身も 国営ラジオのレギュラー番組のDJをされていたこともあったそうです。

こうした青木先生の功績が認められ、中国政府から日中間の交流に貢献した外国人に贈られる、友誼賞を受賞されました。日本国内においても、政府より外務大臣賞、毎日新聞社より 国際貢献賞など、数多くの賞を受賞されています。

また、2004年には、青木先生の 中国における教育支援活動がミュージカルとなり、「赤いハートと蒼い月」という演目で上演されました。

現在、天津市の日本語訓練学校は、視覚障害のあるなしに関わらず学ぶことができます。インクルーシブ校になっております。感染症拡大のため、青木先生は、活動の拠点を日本に移し、オンライン授業で教鞭をとられています。

昨年の夏、講演の打ち合わせで、自宅へうかがわせていただいたとき、お仕事以外の話に及び、旅行や演劇鑑賞など、プライベートでも精彩に富んだ生活を送られていることを知りました。

国の違いや障害を超え、夢を叶え、人生を謳歌している青木先生から学びたいという思いが沸き上がってから半年、本日、念願が叶います。